

## 第33回電波功績賞の「一般社団法人電波産業会会長表彰」を受賞

～「ITU-RでHAPSの『電波伝搬推定法』の国際標準化を達成」が評価されました～

HAPS モバイル株式会社（以下「HAPS モバイル」）は、親会社のソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）と共同で推進し、2021年10月27日に発表した「[ITU-RでHAPSの『電波伝搬推定法』の国際標準化を達成](#)」の取り組みが、一般社団法人電波産業会（以下「ARIB」）が主催する第33回電波功績賞の「一般社団法人電波産業会会長表彰」を受賞しましたので、お知らせします。なお、今回の受賞はソフトバンクとしてのものです。

ARIBの電波功績賞は、電波の有効利用に関する研究開発において、画期的かつ具体的な成果を上げた個人や団体あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に貢献した個人や団体に対して授与されるものです。

HAPS モバイルとソフトバンクは、成層圏通信プラットフォーム（High Altitude Platform Station、以下「HAPS」）の移動通信システムを実現するために、高高度における電波の干渉量の推定と通信エリアの設計を行うことができる世界共通のモデルを新たに開発し、この新しいモデルが国際電気通信連合の無線通信部門（以下「ITU-R」）<sup>\*1</sup>のHAPS向け「電波伝搬推定法」へ追加・改訂され、ITU-R 勧告 P.1409-2 として発行されました<sup>\*2</sup>。

今回の受賞に当たっては、HAPS 向け「電波伝搬推定法」を開発するために、模擬成層圏環境および海外での成層圏環境における「電波伝搬測定」を実施し、測定解析結果に基づく高精度な「電波伝搬推定法」を開発するとともに、ITU-R 勧告の発行に寄与したことで HAPS のグローバル展開促進に向けての電波の有効利用に大きく貢献した点が評価されました。

HAPS モバイルは、今後もソフトバンクと協力し、誰もがいつでも、どこでも安定したネットワークにつながる社会と情報格差のない世界を目指して、HAPS 事業を推進していきます。



< 第 33 回電波功績賞表彰式 (2022 年 6 月 28 日撮影) >

左：佐藤 彰弘 (ソフトバンク テクノロジーユニット 基盤技術研究室 新技術研究開発部 アンテナ伝搬研究開発課 課長)

中央：小松 裕 (ソフトバンク 渉外本部 電波政策統括室 標準化推進部 担当課長)

右：表 英毅 (ソフトバンク テクノロジーユニット 基盤技術研究室 新技術研究開発部 部長/HAPS モバイル 技術管理本部 研究開発部 担当部長)

※1 国際電気通信連合 無線通信部門 (International Telecommunication Union Radiocommunications Sector) :国際電気通信連合 (ITU) は、情報通信技術のための専門機関です。無線通信部門は、国際電気通信連合の部門の一つで、無線通信に関する標準化や勧告を行う機関です。傘下に数々の Study Group (SG) を持ち、Recommendation (勧告) を策定しています。

※2 2012 年に国際標準化された HAPS 向け「電波伝搬推定法」に追加・改訂され、2021 年 10 月に [ITU-R 勧告 P.1409-2](#) として発行されました。

- HAPS モバイルの名称は、HAPS モバイル株式会社の登録商標または商標です。
- SoftBank およびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- その他、このお知らせに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。